

## 第三級海上特殊無線技士試験問題

# 無線工学

(注) 次の各問題の記述について、正誤のいずれかを選び、答案用紙の答欄に正しく記入(マーク)すること。

1. 電流を通さないものを絶縁体という。
2. 送信機は、発振、増幅及び復調を行う部分から構成されている。
3. 搬送波の周波数を音声信号で変化させると、AM (A3E) 電波が得られる。
4. 超短波(VHF) 帯の電波を用いる通信では、主として直接波が利用される。
5. 船舶に用いられる超短波(VHF) 帯のブラウンアンテナの放射素子の長さは、使用する電波の波長のほぼ4分の1である。
6. 1.5 ボルトの電池を4個並列に接続すると、6ボルトの電圧が取り出せる。
7. 無線電話装置で送話の際、マイクロホンにできるだけ口を近付け、大きな声を出した方がよい。
8. 短波は、電離層(F層)で反射する性質があるので遠距離の通信に適している。
9. 電離層は、地球表面に近い順にF層、E層、D層と呼ばれる。
10. 船舶用レーダーは、アンテナ位置が海面より高いほど探知距離は延びるが、探知できない死角範囲も広がる。